

カタクチイワシ卵稚仔出現状況

(2013. 5-2号)

香川県水産試験場 益井

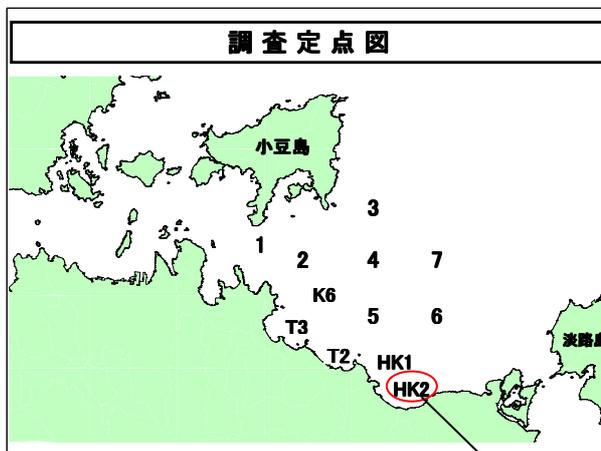
TEL: 087-843-6511

調査方法

調査日: 2013年5月16日

調査方法: 丸特ネットによる鉛直曳

調査定点: 播磨灘11定点+臨時調査1定点
(調査定点図参照)



臨時調査点

【カタクチ卵】 定点別出現数

年 定点	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	HK1	HK2	T2	T3	K6	11点平均値
2011.5.19	38	111	14	8	23	0	0	136	-	87	27	279	65.7
2012.5.17	0	22	0	0	1	0	0	13	-	20	2	0	5.3
2013.5.16	0	0	2	0	2	47	205	44	37	93	2	0	36.0

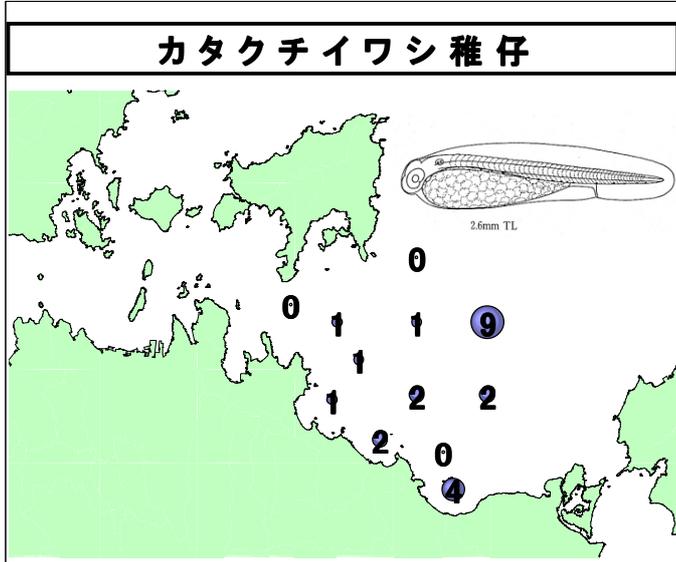
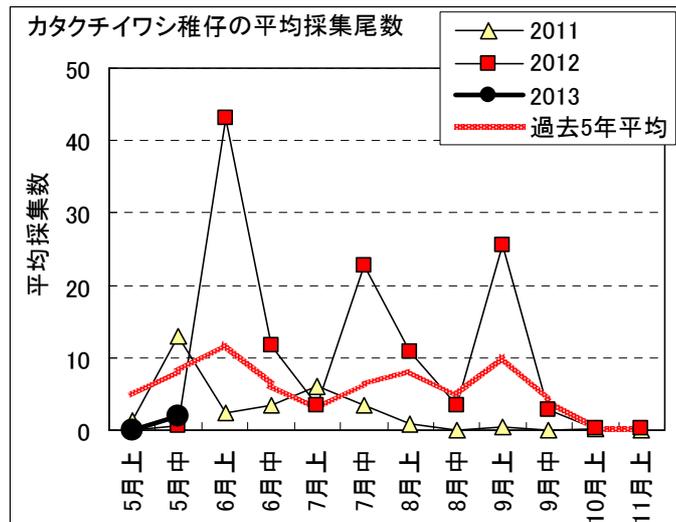
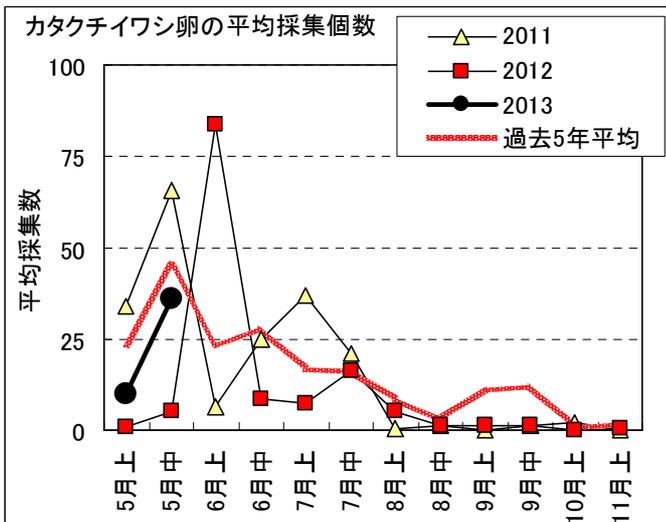
【カタクチ稚仔】 定点別出現尾数

年 定点	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	HK1	HK2	T2	T3	K6	11点平均値
2011.5.19	12	21	10	10	10	0	0	24	-	25	14	17	13.0
2012.5.17	0	1	0	0	0	0	0	3	-	2	0	0	0.5
2013.5.16	0	2	0	1	2	2	9	0	4	2	1	1	2.0

* 表中の「-」は未測定を表す。

* 11点平均値: 臨時調査点を除く播磨灘11定点の平均値を表す。

* グラフの値は、播磨灘11定点の平均値を表す。



播磨灘11定点における卵の平均出現数は36個で、平年(直近5年平均)を少し下回りました。卵は東寄りの調査点に集中していました。一方、稚仔の平均出現数は2尾で、広範囲で万遍なく出現したものの、平年に比べると少ない状況でした。

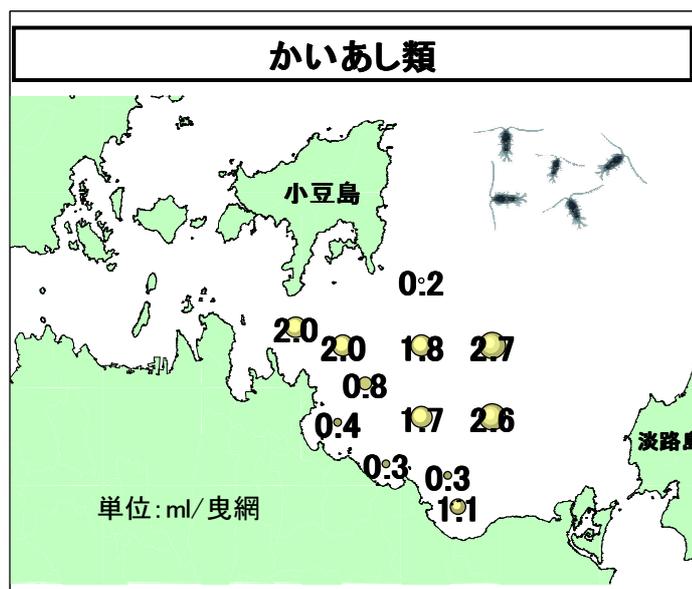
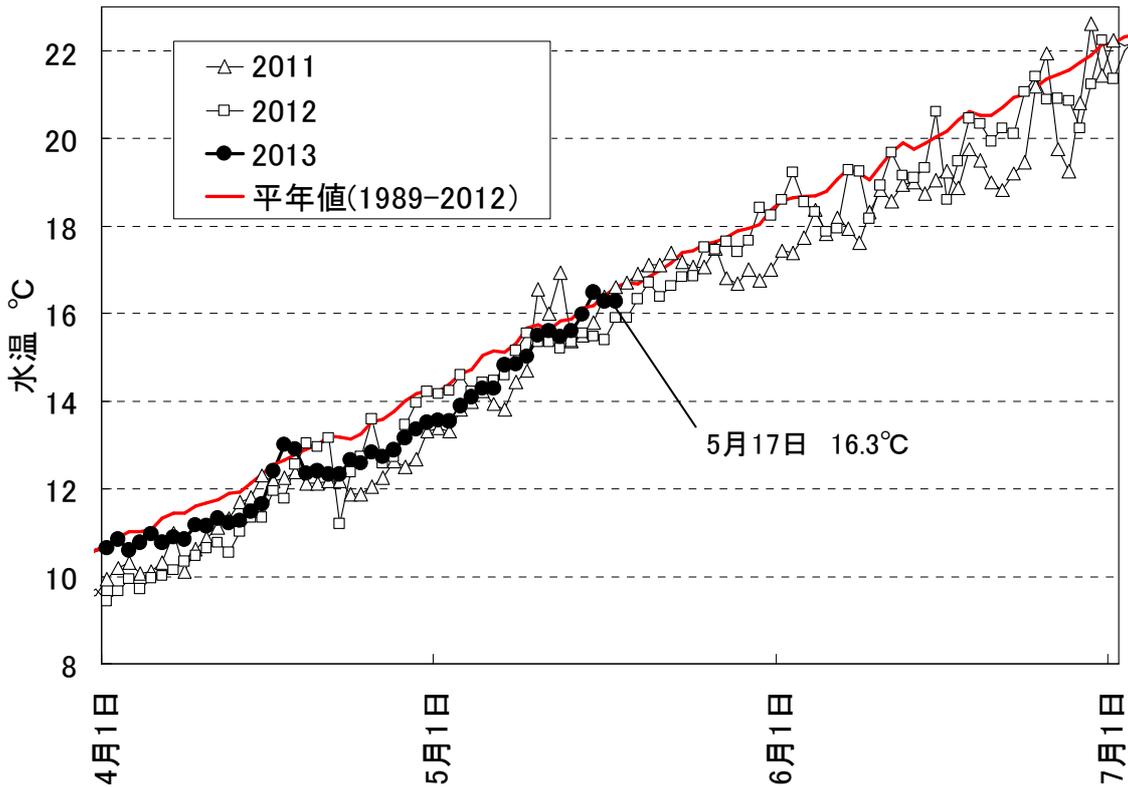
調査時、引田沖(HK1周辺)でカタクチイワシとみられる魚群が多数確認されました。

引田沖の水温は、「やや低め」傾向で推移していましたが、5月中旬以降は「平年並み」に上昇しています。

プランクトンは依然ノクチルカ(夜光虫)が優占しており、前回(5月2日)から急増しています。餌料生物として重要なカイアシ類は沖合の調査点で増加しています。

【参考】

引田沖水温バイデータ(午前9時, 1.5m層)



※カタクチイワシ卵稚仔情報は、「水産試験場ホームページ」の「情報提供」の「カタクチイワシ卵稚仔速報」でも公開しています。

<http://www.pref.kagawa.jp/suisanshiken/>

※次回の調査は、6月3日に浅海定線調査に合わせて実施予定です。